

## 編集後記

『日中語彙研究』第9号をお届けします。執筆者及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

巻頭には、松岡榮志東京学芸大学名誉教授による〈特別寄稿〉「私と辞書の50年—思い出すことども—」を掲載した。長きにわたり数々の辞書の編集に携わってこられた先生の、軽快ながら時代の重みも感じさせるエッセーである。またの機会にこの続きも読ませていただきたいものである。〈論文〉では、彭広陸氏の「“外国語”“外语”と「外国語」「外语」をめぐる」は、日中ともに使われるこの4語について、語構成、語源、辞書、固有名詞などの面から仔細に考察を行った。王鼎氏の「助数詞「枚」の史的展開について」は、中国語の「枚」に源を発しながら独自の発展を遂げた日本語の「枚」の意味と用法の変遷を辿った。田禾氏の「如何纠正日本学生对中文警示类动词的理解偏误—以小词库的建立为例—」は、教育現場からの視点で「注意する」と「注意」にみられる意味と用法のずれから、「シソーラス」の構築を提案した。呉琳氏の「日中慣用句における「手」の意味拡張」は、「手」の意味的拡張（派生義）に注目し、その拡張のプロセスを明らかにしていきながら両言語の共通点と相違点を詳細に考察している。顧令儀氏の「日中同形同義語「協力」の語義及び使い方に関する比較研究」は、コーパスを駆使して日中語の「協力」について、その用法を調べ意味と用法の差異を考察した。〈研究ノート〉に掲載された沖森紅美氏の「“愛”と“喜欢”」は、その二つの語の意味と用法を多くの用例を挙げて詳細に記述した。そして、〈新語録〉の趙蔚青氏と〈動向〉の施暉氏には、現代中国社会を反映する新語・流行語と日中語彙対照研究について、毎号寄せていただいている。いつもフレッシュな情報を送ってくださることに感謝したい。

これら収録の論考が日中語彙対照研究ないし日中語学教育の参考になれば幸甚である。

(編集委員会)

---

### 『日中語彙研究』第9号

---

2020年3月30日発行

編集・発行 愛知大学中日大辞典編纂所

名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777

Tel. 052-564-6122 Fax. 052-564-6222

<http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/>

組版 株式会社あるむ

---